



2022

今年もよろしくお祝い申し上げます

理事長挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。

ご支援いただいた方々をはじめ関係者の方には大変お世話になりました。はじめての緊急事態宣言には国民全体が恐怖と不安を感じながらの生活を余儀なくさせられた感がありましたが、生活の中で各々が自己防衛と行動計画の徹底が図られ、慣れもありましたがそれなりに感染における社会的行動制御が身についてきたように感じられています。一昨年に比べ昨年は法人全体としては本来の事業に少なからず着手できたのではないかと評価しております。

各事業を振り返ります

- ・たまり場ぱれっとは、学生のボランティア獲得に努力し開放日が少ない分ボランティアの心が離れないようオンラインを駆使し、ベテランボランティアの力を借りながら活動を充実させる動きが取れました。当日は人数を制限しながらも利用者の方とボランティアの交流を楽しみながら、コロナによって気持ちが離れないよう「たまり場はなれ」と銘打って運営が継続できています。

- ・おかし屋ぱれっとは、何よりも利用者の方の通所日数を増やす努力をし、一昨年のような職場との距離がおかれ気持ちの上で不安定が生じないように配慮しました。世間一般的に経済活動を回す意識が高まるにつれご注文も頂くようになり、年末は例年同様製造に追われ大変活気のある充実した年となりました。

- ・ぱれっとホームは、経営的な不安定さを残しつつも若い入居者の方も増え、落ち着いた生活が各々送っていました。グループホームの理念の見直しをスタッフ全員で行ない、支援の在り方やこれからの方向性について確認できたことは大変評価できます。

- ・ぱれっとインターナショナル・ジャパンは、コロナの影響を受けつつも、活動が途切れることのないようオンラインを駆使しモンゴルとのつながりを継続しています。世界的な蔓延を注視しながらモンゴルとの交流企画実施の可能性を探る動きが続きます。

- ・ぱれっとの家 いこっとは、長年抱えていた入居者どうしの人間関係の課題は解消してきています。サポートの会メンバーの存在は大きく、彼等のモチベーションを如何に維持するか、開設から10年が経過し、ぱれっと事務局側の働きかけが問われてきています。

法人全体として落ち着きを取り戻しつつある状況ですが、経営的には一足飛びに解決には至らない課題に引き続き取り組まなければならない年となりそうです。

引き続き本年もどうぞよろしくお祝い申し上げます。

（認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭）





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局 ▶

明けましておめでとうございます。改めまして、多くの皆様よりご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。振り返ってみると、昨年の今頃は、厳しくなる一方のコロナ禍の中、先行きどうなるかという不安の渦中にいました。「隣の人との存在が脅威になる」・・・今までは考えもしなかったことが次々と起こり、とても「これからの10年」を描くどころではなく、今日のこと、明日のことに追われていたようにも思います。しかしそのような中で多くの皆様からの励ましのメッセージや温かい支援をいただき、改めて私たちはたくさんの方々の想いに支えられているということを感じた1年でもありました。事務局で仕事をしていると、こうした声がたくさん集まってきます。それを皆で共有し、各現場の力とすることも重要な役割として、今年も少しでも夢のある活動を展開していきたいと思っております。

（事務局長 南山達郎）

たまり場ぱれっと ▶

あけましておめでとうございます。2021年7月に入職し、早くも2022年のスタートですが、たまり場ぱれっとの仕事に携わるにあたり、私には心掛けています。それは『守・破・離』です。利休道歌から引用された言葉ですが、昨年は“守”の時間でした。コロナ禍により私たちを取り巻く環境は変化し、多くの新しいルールが浸透しました。だからこそ、今一度辿ってきた道筋や工程をしっかりと理解し、なぞらえる必要があると考えています。それを省いてしまうと、大切な“想い”が継承されないからです。そこから、その時代に合ったより良い形を模索し、自分なりにアレンジしていく“破”に移行します。今年はまさにその入り口だと身の引き締まる思いです。

そしていつか、皆さまと協働し進化した「たまり場」を創造（“離”）してみたいと思っています。引き続きお力添え賜りますようよろしくお願いいたします。（職員 仲井香織）

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと ▶

明けましておめでとうございます。「皆の仕事が無い」こと程、苦しいことは無いと実感した、コロナ禍真ただ中の一昨年とは打って変わり、この冬は大忙しの活気あふれるおかし屋・工房となりました。置き菓子販売や、工房の展覧会に象徴されるように、いただけるご依頼（仕事）だけでなく、自分たちから仕事を作りに行こう！と新たな一歩を踏み出した年でもありました。今年は二歩目、三歩目…と皆で軽快に行きたいものです。寄り道をしたり、立ち止まったり、飛び跳ねたり…決して足並みは揃わなくても、一人ひとり異なるペースと進み方が“私達らしさ”。一見バラバラに見えても“調和している”のが私達です。今年はここからどんなメロディとリズムが生まれて、皆さんを楽しませることができのでしょうか。応援の程、どうぞよろしくお願いいたします。（所長 玉井七恵）



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

明けましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルスの影響により、入居者の皆さんは以前とは違う生活をしなければなりませんでしたが。その中で秋に感染者数が少なくなってくるに伴い、入居者の皆さんは、少しずつ以前のような余暇の過ごし方ができるようになってきております。すぐには戻れませんが「皆さんのやりたいこと」を少しでもできるように、我々スタッフはサポートしていきたいと思っております。それから、2021年はしぶや・ぱれっとホームに2名、えびす・ぱれっとホームに1名の新しい入居者が入りました。新しく入った入居者の皆さんもホームの生活に慣れ、生活を楽しんでいるようにみられます。2022年に関しましても昨年と同様に、できる限りの感染対策をとりながら、入居者皆さんの望む生活の手伝いができればと思っております。

（施設長 中本真一）

ぱれっとインターナショナル・ジャパン（PIJ）▶

新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナが蔓延してからというもの、国際交流の扉は閉ざされたままで、全く事業が行えない状況が続いております。それでも、モンゴルのNGOとつながりができた障がい児者父母の会（APDC）と関係を紡いでいくために、幾度かオンラインで会議を開いています。モンゴルも日本と状況は同じで、就労支援などの日中活動自体は制限され、スタッフはリモートワークを強いられています。

今年に入り幹部どうし今の状況を共有しながら、来るスタッフ交流企画実施に向け、いつのタイミングで実行できるか模索しはじめています。しかし、終息が見えない中、日本国の水際対策の下ではインターの動きは積極的に取れない状況が続きそうです。

（PIJ 代表 相馬宏昭）

ぱれっとの家 いこっと▶

あけましておめでとうございます。

昨年のいこっとは、コロナの影響が続く中で入居者を集めることに注力した1年となりました。入居者は7名となり経営の状況は改善してきております。いこっとサポートの会は、オンライン会議を毎月行なっています。今後の運営方針や体制について議論を重ねています。サポートの会は10年以上関わってメンバーが多く、それぞれの事業への最適な関わり方や貢献の仕方を話し合っている状況です。それぞれの強みを活かして、いこっとの事業をより良くしていくための体制を整えていきます。また今年度行なってきた、情報発信や外部団体とつながりをつくる動きはさらに強化していきます。

（いこっとサポートの会リーダー 黒澤友貴）